



2019年3月に大学構内に植えた6本のぶどうの苗。足首の高さほどだったのが、学生が慣れない手で剪定・誘引、施肥や消毒など愛情を込めて育てて4年目の秋、1本も欠けることなく元気に育った6本のぶどうの樹。

3年目の2021年は台風や鳥獣害で全滅しましたが、昨年秋には立派に実をつけ9月14日に初めての収穫。学生が摘みとったぶどうは大小合わせて188房、46kg。山梨県の白百合醸造で選果～仕込み作業を行いました。

CUC100ワイン・プロジェクトでは、学生が手掛けた初めてのワインの誕生にあたり、昨年12月に学生・卒業生・教職員のみなさんから、初ワインのネーミングとボトルラベルのデザインを募集しました。今年1月6日（金）の期限までに届いた作品は全12点（応募者数は10人、うち学生が6名で8作品、その他4名で4作品）でした。

審査は、公平を期すために応募者の属性（学生・教職員の別、年齢・性別）を伏せて作品のみを提示することとし、ワインPJの学生による一次選考、学内関係者8名の審査員による二次選考を経て、理事長・学長による最終選考が行われ、厳正な審査の結果、最優秀賞1点、優秀賞3点が選出されました。

審査員の皆さんは、応募の各作品いずれも制作者のアイデア、独創性に溢れた力作揃いで、大学100周年の祝賀、国府台の歴史・風土、初収穫したぶどう、大学構内で栽培した、困難に打ち克つ、新しい時代への挑戦、希望、未来へ前進、感謝、といった様々なフレーズやテーマを取り上げ、それに込められた思いが深く伝わってきました、レベルの高さを感じます、と異口同音に語っていました。

以下、受賞者と受賞作品をご紹介します。

最優秀作品は、ワイン生産地の自然環境・地域性（テロワール）を取り入れたネーミングの巧みさ、キャンパス風景をモノトーンでまとめた写真とヴィンテージ風の意匠でまとめた構成のバランスが高く評価されたものです。

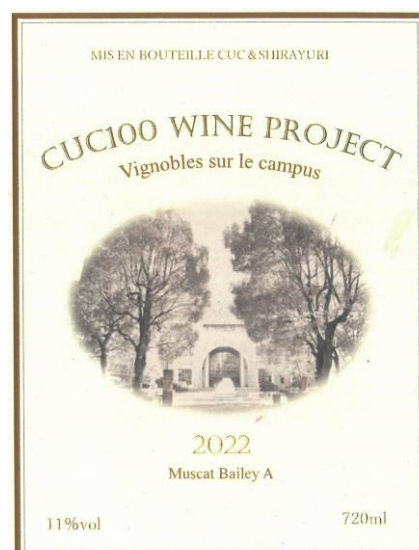
■最優秀賞（1点）

作品名 「Vignobles sur le campus」

（ヴィニョーブル・スュール・ル・キャンパス）

応募者 平岡 知樹（ひらおか ともき）

商経学部経営学科 1年



最優秀作品

■優秀賞（3点）

①作品名「嗣 ～TSUGU～」(つぐ)

応募者 小西 俊太郎 (こにし しゅんたろう)

人間社会学部人間社会学科 3年

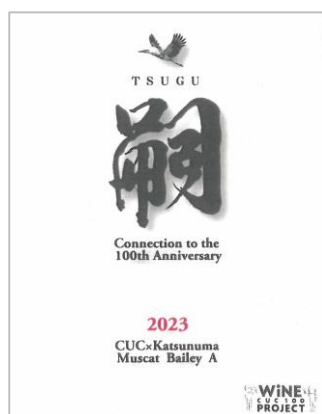
②作品名「FANFARE－百寿－」(ファンファーレ、ひゃくじゅ)

応募者 吉野 優花 (よしの ゆか)

サービス創造学部サービス創造学科 4年

③作品名「L'AVENIR」(ラヴニール、未来へ)

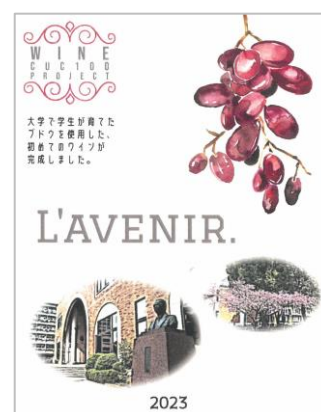
応募者 元林 舞 (もとばやし まい) CUCサポート勤務



優秀作品①



優秀作品②



優秀作品③